

# 介護特化の管理職育成

介護サービス、教育研修、人材サービス事業を展開するさくらコミュニケーションサービス（札幌市/以下・さくらCS）と小樽商科大学は10月より、フルオンラインの介護業界向け中間管理職育成プログラムを開講している。

## さくらCS 小樽商科大学

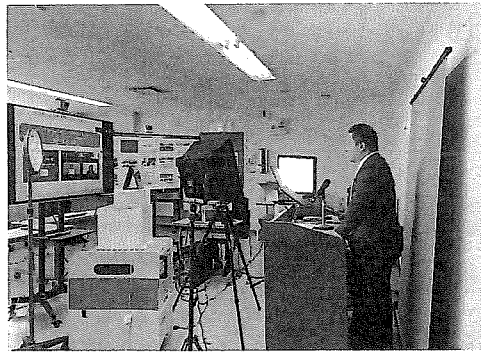
本プログラムは、文部科学省「就職・転職支援リカレント教育推進事業」の一環。異業種で働くマネジメント

観点から必要な知識や思考法と、介護保険制度やケアマネジメント手法など介護業界で働く上で必要になる知識を概略的に学ぶことができる。CSRやSDGsなど、今後企業に求められる視点も網羅。Zoom上での参加者同士のディベートや、さくらCSが開発したVRで、介護技術を学ぶ講座もある。小

樽商科大学ビジネススクールのヘルスケア×マネジメントコースの講義を持つ藤原健祐准教授が開発した講座に、さくらCSの介護事業の知見に基づくりアルな解説を組み込んだ。「目の前のことだけでなく、事業を今後どう展開していくか、という視点で考える人材が増えてくれれば」という思いで、開発に致った」と藤原健祐准教授。

## 経営視点持つ人材を

さくらCSのキャリアサポートを受けることが可能。道内の介護職



教材撮影の様子

介護事業者と取引を行う同社のネットワークを活用したサポートを行う。「開講が始まっている現在、介護業界で働く人の申し込みも多い。そうした人にもフィットするよう改良を加えていく予定」と中元秀昭代表。介護事業者で働く人が、いかにキャリアアップをしていくかサポートをする形も考えているという。

本プログラムは3期にわたって開講され、各期間の定員は10名。3期ともすでに満員だという。初年度は文科省の助成金により受講料は無料。来年度からは有料でプログラムを開講する。反響は非常に大きく、法人単位での申し込みも多いという。今後、MBA（経営学修士）の取得のためのプログラム開発も行っていく構え。経営視点やケアマネジメントより本格的に学べるプログラムにブラッシュアップしていく。